

平成 24 年 12 月 14 日

平成 24 年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

宮城教育大学附属図書館学術情報課学術情報管理係
吉植 庄栄

平成 24 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により、インド共和国の大学図書館等を訪問の上、調査研究を行った。以下のとおり報告する。

1. 調査研究テーマ

「IT 大国インドにおける学術情報流通の最新事情」

2. 訪問期間 平成 24 年 11 月 17 日（土）～平成 24 年 11 月 25 日（日）

3. 調査研究内容

IT 大国インドの人材育成を支える大学図書館等を訪問し学術情報流通、とくに電子ジャーナルや機関リポジトリに関する全体的な動向について聞き取り調査を実施した。そのほか各機関の図書館等を見学し、研究者及び学生の研究教育環境について知見を深めた。また DELNET 主催の NACLIN2012 に参加し、インドの図書館界の全体的な動向を聴取するとともに、多数のライブラリアンと意見交換を行った。

4. 調査研究の成果

成果概要は以下の通りである。

・【機関リポジトリについて】

機関リポジトリについては 2002 年という早い時期から着手しており、理論的な研究も多く文献がある。件数と登録数は日本ほどの伸びが無いものの、複数大学による連合の機関リポジトリなどが立ち上がっているほか横断検索システムもあり、徐々に全国規模に拡大しつつあるところである。

・【電子ジャーナルについて】

財政難に悩むところが多く電子資料の購入に苦勞していたが、現在は大規模なコンソーシアムが複数立ち上がり、大手出版社の外国雑誌の廉価契約に一定度の成功をおさめている。

・【ライブラリアン】

訪問先で対応してくれたライブラリアンは全員理工系出身者であり、大会で交流をしたライブラリアンも社会科学系の 2 人を除き全員が理工系出身者であった。こ

の背景からプログラムの知識と能力があるライブラリアンが多く、オープンソースのカスタマイズを促進させている。しかしこの傾向について IISc の Dr.Francis Jayakanth に帰国後メールで確認したところ、人文系のライブラリアンも最近は増加しているとの情報を得た。

インドのライブラリアンは欧米型の職階と待遇であり、多くは Faculty として指導学生を持ち研究を行っていた。また総合大学のライブラリアンにインタビューした結果、図書館情報学の学位を持つことは必須で、その他に物理学などの学位を持っているケースが多かった。

・【財政難】

財政難のため電子ジャーナルの契約に苦勞しているのは前述したが、機関リポジトリのみならず図書館システムまでオープンソースのカスタマイズで対応することを推奨している。また高温多湿という過酷な環境の中、古い資料については紙の劣化が目立ち環境の維持に苦勞していた。

・【その他】

インドのライブラリアンが口々に、S.R.ランガナタンはインドの図書館の偉大な父だと言っていたことから、未だにランガナタンの実績と成果は讃えられていることが理解できた。

今後であるが、論理的に考える素地、英語を公用語として使っている背景、膨大な人口と明るい国民性が土壌にあるので、20-30 年のスパンで見ると学術情報の面でも今後大きな発展が予想される。

以上概要を示したが、これまで情報が少なかったインドの図書館の現状、学術情報流通の動向、電子化事情、そこに働くライブラリアンの動態などの諸情報を、各種入手した資料やインタビューを元に今後報告することができる見込みである。多数の図書館関係者と意見交換を行ったことから、今後も交流を継続することで最新情報を更新することも可能となった。

以下、各機関の調査概要を報告する。詳細については、「大学図書館研究」へ投稿予定である。短期間に以下多数の訪問先に出向くことができたのは IISc: Indian Institute of Science (インド科学大学院大学) の Dr. Francis Jayakanth のご尽力によるものである。彼のおかげで複数の図書館及び図書館関係諸団体の関係者との会談が可能となり、非常に内容の濃い充実した調査を行うことができた。

5. 訪問先と調査結果概要

■2012.11.19 AM9:30

NISCAIR: National Institute of Science Communication and Information Resources (国立科学コミュニケーション情報資源研究所)

対応者 : Dr. Ashok Chawla, Dr. Narendra Kumar, Dr. G. Mahesh, Mr. Inder Sen

【概要】

当所はインドの学術流通、特に科学技術部門に関する情報流通を支える機関として、学術雑誌の刊行事業、電子図書館サービスの開発、翻訳事業、人材育成に取り組んでいる機関である。敷地内に NSL: National Science Library (国立科学図書館) があり、25 万冊の科学技術文献を所蔵するほかここで ISSN の付与も行っている。当所の機関リポジトリ NISCAIR Online Periodicals Repository には当所が発行する科学関係逐次刊行物を中心に 13,462 件 (平成 24 年 12 月現在) のデータが登録されている。機関リポジトリについては NISCAIR が全国的に補助金を給付することでリポジトリ建造を促す事業を行ってきた。日本の JAIRO Cloud の様なクラウドシステムも現在着手中であると説明があった。

【内容】

- 1) NISCAIR の歴史、機能などの説明 (Dr. Ashok Chawla, Dr. G. Mahesh)
- 2) NSL(National Science Library)の機能の説明と見学 (Mr. Inder Sen)
- 3) ETD(Education and Training Division)の活動説明と見学 (Dr. Narendra Kumar)

■2012.11.19 PM13:30

IIT: Indian Institutes of Technology, Delhi (インド工科大学デリー校)

対応者 : Dr. Bibhuti B. Sahoo

【概要】

当校はインドを IT 大国にたらしめている人材を輩出する名門研究大学である。館内には RFID 完備の蔵書によって自動貸出機の運用が行われており、館内では多数の学生が静寂且つ熱心に学習をしていた。また、インドの全国的な大学コンソーシアムである INDEST-AICTE(Indian National Digital Library in Engineering Sciences and Technology)の主催校ということもあり、この調査も併せて行った。INDEST-AICTE は全国の IIT (インド国内に 8 校を数える。) と IISc (後述) を含む 57 館のコアメンバーを中心に合計 1,364 館に及ぶ工学系大学が加盟するコンソーシアムで、24 件のフルテキスト・パッケージ、5 件の書誌データベースの廉価契約に成功している。

【内容】

- 1)IIT Delhi Central Library の見学

2)INDEST-AICTE について資料による解説

■2012.11.20-22

NACLIN2012 (National Convention on Knowledge, Library and Information Networking) by DELNET(at The Maharaja Sayajirao University of Baroda)

【概要】

DELNET はインドの図書館協力組織の一つである。この DELNET が開催する図書館大会 NACLIN2012 に参加した。今回で 15 回目の記念開催である NACLIN2012 は、「図書館の未来」をテーマとし、これからのインドの図書館について発表や討論が活発に行われた。そのほかインドの図書館運動 100 周年を記念した大会でもあった。この大会に於いてインドの図書館に関する話題を多数聴講することができ、目下彼らが課題としていることについて多くの知見を得ることができた。また会場であった Maharaja Sayajirao University of Baroda, Smt Hansa Mehta Library の見学も併せて行った。

【内容】

1)NACLIN2012 の聴講

※主なセッション：Koha（オープンソースの図書館システム）のレクチャー、
インドの図書館運動、学びの空間とネットワークとしての図書館、
電子資料、図書館情報学の教育とその技能、
技術が図書館を変える、図書館サービス

2) Maharaja Sayajirao University of Baroda, Smt Hansa Mehta Library の見学(Dr. Mayank Trivedi: Librarian)

■2012.11.23 PM11:00

IISc: Indian Institute of Science, Bangalore（インド科学大学院大学）

JRD TATA Memorial Library

対応者：Dr. Francis Jayakanth

【概要】

IISc は IIT と並んでインド屈指の理工系研究大学である。この図書館である JRD TATA Memorial Library にはインドの老舗機関リポジトリである ePrints@IISc の立ち上げから運営に携わっている Dr. Francis Jayakanth 氏が勤務しており、彼にインタビューを行った。彼については過去様々な媒体に取り上げられており、それらを参考にしつつ質問させて頂いた。

彼によるとインドの機関リポジトリは発足が早かったのだが、その後資金不足や支持者を集めることが進まず、日本ほどの進捗を見せることができなかった。近年は学術情報無償アクセス化が雑誌価高騰への対抗手段として有効であることが徐々に浸透してきたことと、S.R.ランガナタンの「全ての人にその人の本を」の考えに基づき、全ての人々が学術情

報にアクセス可能であるべき、という考えが彼らの土台にあるので、徐々に支持者が増えており、現在は横断検索システムや連合リポジトリなどのプラットフォーム構築も進んでいるとのことであった。

【内容】

1) Dr. Francis Jayakanth 氏へのインタビュー

2) JRD TATA Memorial Library の見学

※なお、ここ IISc から最後の用務先である SRELS の間、Dr. Francis Jayakanth 氏が車で案内してくれたのみならず、各所の対応者へ自分を紹介して頂き、大変世話になるとともに助かった。

■ 2012.11.23 PM15:00

DRTC : Documentation Research and Training Centre

対応者: Dr. Devika P. Madalli, (Dr. Francis Jayakanth)

【概要】

DRTC は ISI: Indian Statistical Institute, Bangalore Center (インド統計大学) のドキュメンテーション部門である。かつて S.R. ランガナタンが晩年に所長を務めていた組織で、ドキュメンテーション研究とインドの図書館界を支える人材育成の拠点となっている。多くの学生が学んでいる講義を見学したほか、日本の図書館事情、とくに JAIRO Cloud について請われて臨時にレクチャーを行った。また館内には Library も併設されており、併せて見学を行った。この Library では、ランガナタン由来のコロン分類法による請求番号が付与されているのを確認した。

【内容】

1) Dr. Devika P. Madalli 氏へのインタビュー

2) DRTC 館内の見学

3) DRTC の講義見学

4) 日本の図書館、特に JAIRO について臨時に講義

3) Library of DRTC の見学

■ 2012.11.23 PM18:00

SRELS: Sarada Ranganathan Endowment for Library Science (サラダ=ランガナタン図書館情報学基金)

対応者: Dr. K.N. Prasad, Dr. A. Neelameghan (Dr. Francis Jayakanth)

【概要】

SRELS は S.R. ランガナタンが図書館情報学の振興のため創立した基金であり、夫人の名前を冠したものである。主に図書館情報学関連の出版活動、S.R. ランガナタンの著作の復刻を行っている。ここでは直接 S.R. ランガナタンに習った Dr. A. Neelameghan 氏から思い出などをインタビューしたほか、出版活動の概要を伺った。最後に館内を見学した。

1) Dr. K.N. Prasad, Dr. A. Neelameghan 両氏へのインタビュー

2)SRELS の出版活動についての講義

3)SRELS の館内見学